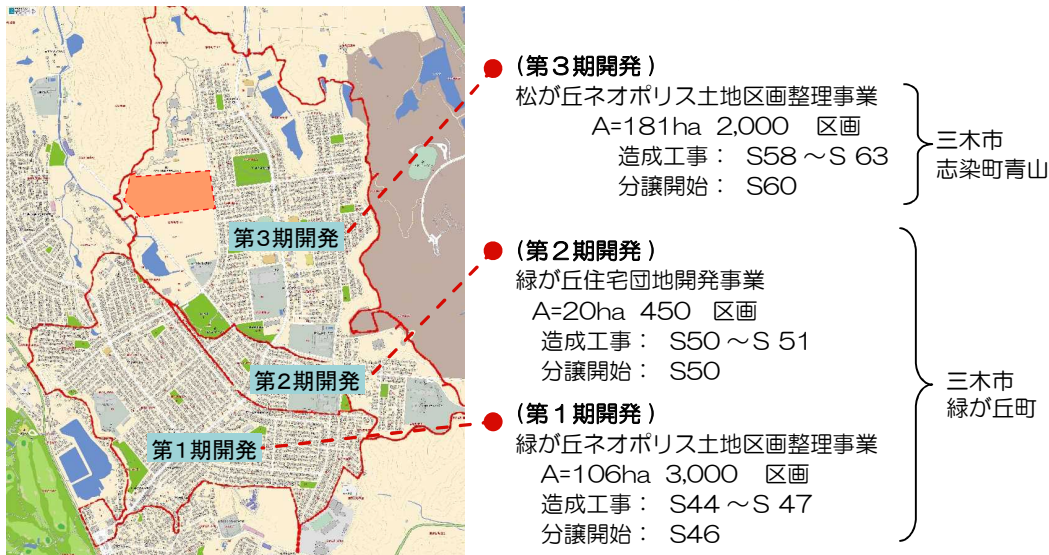


## 地区概要／地域の課題

### 【地区概要】

- 兵庫県三木市は神戸市三宮から車で約50分、電車で約60分の位置。
- 緑が丘・青山地区の緑が丘ネオポリス・松が丘ネオポリスは、神戸市や大阪市のベッドタウンとして開発された郊外型戸建住宅団地。



### 【地域の課題】

- 高齢化の進展(緑が丘地区は三木市でも高齢化の進行している地区。高齢化率 約40%)
- 起伏のある地形(高低差は最大約50m)
- 地区内循環バスの不振(乗客1人/便未満)

## 目指す方向性

### 【将来の自動運転サービス】

(仮称)団地再生推進母体が運営する

#### 自動運転車両シェアリングサービス

- マイカーやタクシーより安価で、バスより利便性が高い移動手段を検討し、住民が外出の機会を減らすことなく、地域に住み続けられるまちを目指す。
- 交通サービスの運営は、団地再生を推進する組織である三木市生涯活躍のまち推進機構が担う。

### 【自動運転サービス導入により期待する効果】

- 1) 地区内の効率的な移動手段の創出
- 2) 地区コミュニティの活性化  
住民の外出機会の増加による健康増進  
地区内拠点を交通拠点としても活用することで、住民が集う場を創出

## 計画概要

- 予め設定された自動運転走行区間(約2.6kmの範囲内)の沿線住民を対象者にした市街地公道での自動運転による送迎サービス。
- モニターとなる利用者は、電話またはWEBアプリで事前にサービスを利用したい日時・出発地・目的地を入力・予約し、自宅から約1km~2km程度(ワンマイル)の短距離にある公民館・自治会館・スーパーを行き来できるサービス。



運行車両 : トヨタエスティマをベースとした自動運転車両1台(定員2名:ドライバーとモニターが乗車)



走行延長	約2.6km
運行方式 ／乗降方式	予約型運行 乗降場所を自宅、地区内拠点、商業施設、自治会館、公民館等に設定
実験期間	2019年2月16日(土) ～2月22日(金)(9:00～17:00)
利用者	実験ルート沿線の居住者に限定、事前登録を実施
走行車両	ミニバンタイプ 1台定員2名
運行システム	デマンドバス導入実績のある予約システムを使用 電話およびWEBサイトを通じて予約を受付
走行方法	自動走行レベル2で走行 自動走行車両の前方には先導車両を走行 ルート周辺のモニターの自宅へのアプローチや緊急時にはドライバーが運転
安全管理	歩道横断部での誘導員配置 ドライバーへの教育徹底
特記事項	シナリオに即した体験乗車を実施予定

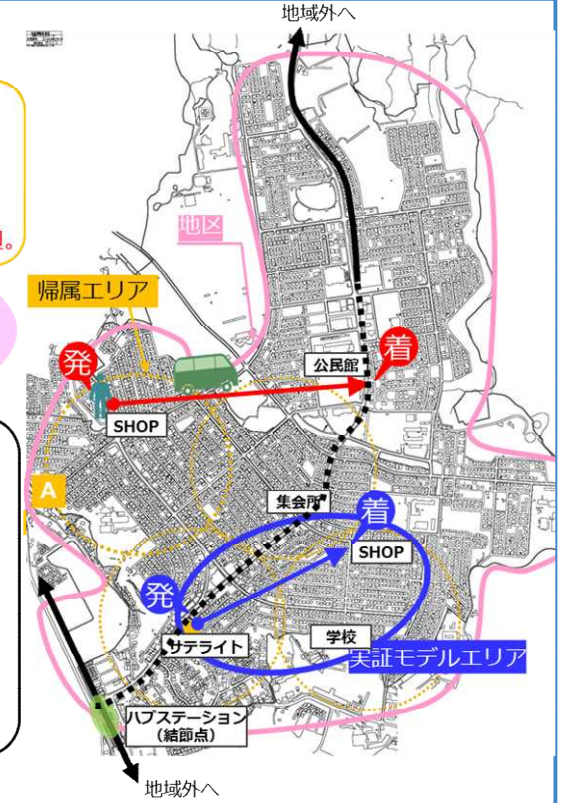


## 将来ビジネスモデル

### 【サービスの概要】

- マイカーやタクシーより安価でバスより利便性が高い移動手段を検討し、住民が外出の機会を減らすことなく、地域に住み続けられるまちを目指す。
- 地区内の住民により、自動運転車両を共同所有し、住居から地区内の施設への移動に活用する。  
レベル4またはレベル5自動運転により無人の車両を呼び出して利用する。
- 車両の保管場所は、コミュニティエリア(複数の町丁目の集合体)ごとに選定する。住居の車庫等の活用も想定する。
- 住居での車両呼び出しに加え、地区内のコミュニティエリアごとに設置を進めている「サテライト拠点」を乗降拠点の一つに設定し、優先的な利用や予約なしでの乗車等の運用を検討する。  
サテライト拠点に関しては、エリア内の不動産を有効に活用し、住民の集客拠点として位置づける。

自動運転車両を地区内で共同所有し、ランニングコストの負担を行う新しいモデルを検証します。



自動運転におけるサテライト拠点の役割  
車両の運行状況の確認、予約



**将来像**  
地域住民で自動運転車をシェアしコミュニティエリア内の移動に利用。  
**利用者**：各帰属エリア  
**乗降場所**：コミュニティエリア内であれば自由  
**呼出方法**：電話・スマホ  
サテライト拠点来訪  
**運営管理者**：推進機構

### 【サービスの運営体制・ビジネスモデル】

- 新たな交通サービス運営は、団地再生を推進する組織である三木市生涯活躍のまち推進機構が担い、移動に係る費用を包括的に収受するスキームや住民が車両をシェアする体制を構築する。三木市生涯活躍のまち推進機構等が中心となり、まちづくり活動におけるサテライト拠点の設置箇所や運用方法を検討する。
- マイカー主体の生活、有人の公共交通サービス、シェアリングサービスに関し、利用者の支出、地域としての事業収支の比較を行い、シェアリングサービスの優位性を検証する。

